

第1章 基本構想

第1節 有田町町民憲章

豊かな自然、悠久の歴史、類まれな景観に恵まれた有田町。わたしたちは、世界に誇れるまちの住民として、自覚と責任を持ち、時代を切り開く精神のもと、互いに手を取り合い、明日に向かってたくましく進むことを誓い、ここに憲章を定めます。

清流がもたらす みどり豊かな自然に親しみ

美しいまちをつくりましょう

ふれあいと思いを大切に

あたたかい心でもてなすまちにしましょう

歴史と伝統ある郷土を愛し 互いに学びあう

文化のかおるまちにしましょう

ふるさとが誇る ものづくりの志を高め

活力のあるまちをつくりましょう

共に助け合い 絆を深め 笑顔あふれるまちにしましょう

2027年◎◎なまち、有田

ありたのあしたアナタカラ ～住民委員会2018～での、ありたの未来予測をテーマにしたワークショップにおいて、16の有田町の未来（◎◎なまち）がそうぞうされました。

世代を超えたつながりがある

- 4世代のまち - 同居家族の
すすめ
- 子供がお年寄りから知恵をもら
える地域が支えるまち

暮らす人がイキイキと支えあう

- なんでもありたな、新たなまち
- 活気のある元気なまち
- 歩く人が途絶えないまち
- ワクワクするまち
- 町民みんながガイドなまち

安心して住む環境が整っている

- 住みたい街ランキングベスト10
入りする魅力があるまち
- 若者が仕事があってもなくても、
生活できるまち
- 人口の伸び率が日本一のまち
- 税収が安定するまち
- 空き屋敷0なまち

産業が生み出されている

- ブランドなまち
- スーパーなまち
- 佐賀県のハブになるまち
- 田舎なまち

これらの16の未来予測を踏まえ、有田町の将来像を

ひとつつながり ひとつどう
世界に誇れるまち 有田

と定め、この実現を目指していきます。

有田町は、重要伝統的建造物群保存地区、棚田などをはじめとした豊富な観光資源、世界に誇る“有田焼”に象徴される陶磁器産業、佐賀大学芸術地域デザイン学部創設に伴う有田キャンパスの開設など、多くの強みを有しています。この強みを最大限に活かしながら、目指すべき将来の方向を踏まえ、総合的な取り組みを行い、将来人口を目指していきます。

平成39（2027）年度の将来目標人口 1万9,000人を目指します。


【推計条件】

◆合計特殊出生率：

現在の1.68を2040年（平成52年）に2.07へと段階的に改善し、それ以後は一定とする。

◆社会移動：

段階的な若者夫婦の転入や高校卒業時の転出抑制などで2025年に社会増減が増加に転じ、2040年に約100人の転入超過とする。

次ページの図は、将来人口推計を示したもので、社会増減の実績に基づく移動率と国の長期ビジョンに基づく合計特殊出生率（※注）で推計したものが「」です。この国立社会保障・人口問題研究所の推計を基に試算した総人口は2010年の20,929人から2040年には15,438人に、2060年には11,697人となり2010年人口の約56%の人口となる結果となりました。

今後は、出産・子育ての支援を継続し、合計特殊出生率を現在の1.68から2040年までに2.07（人口置換水準※注）に段階的に改善するとともに、雇用の創出や地域の魅力を高める取り組みを進めることにより、人口の転出超過を若者夫婦の転入や高校卒業時の転出抑制などで現在の半分程度とすることで、2040年には17,483人に、2060年には15,780人となり2010年人口の約75%の人口規模を維持することを目指します。

※注 合計特殊出生率……15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生に産む子供の平均数を示す。

※注 人口置換水準……人口の規模及び構造が安定するための条件となる水準のこと。

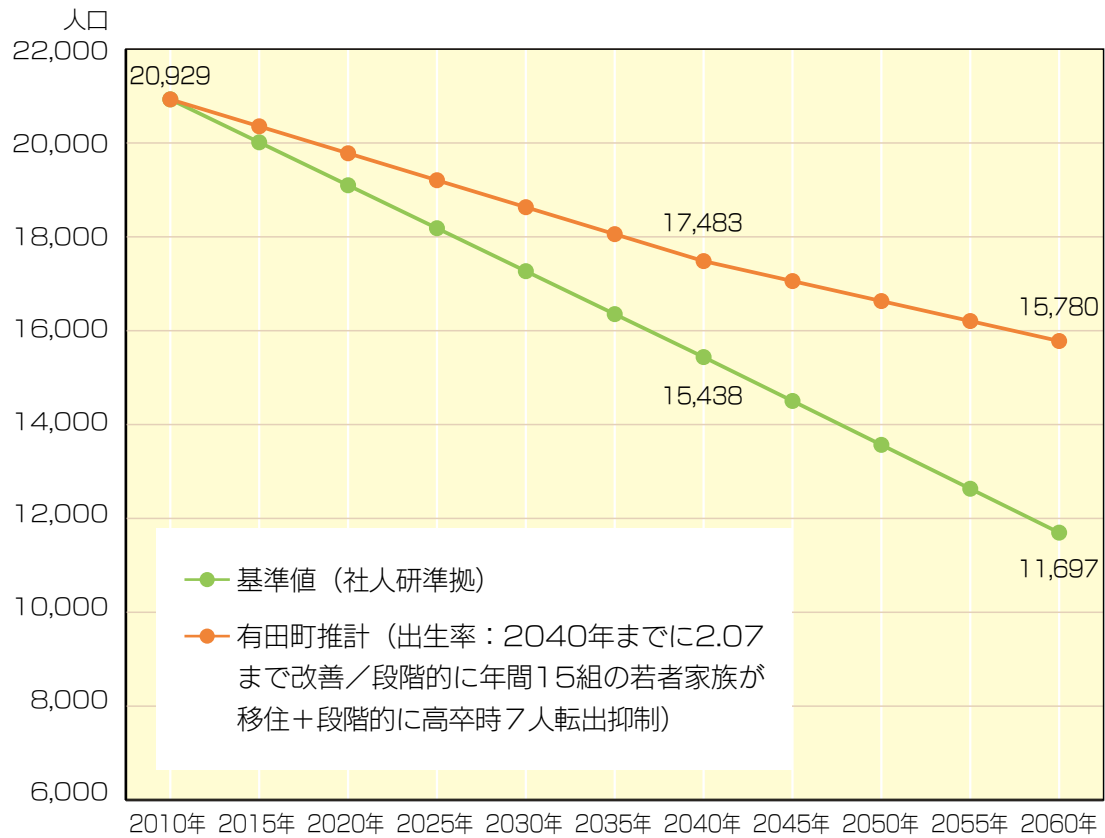


図1 社人研推計及び有田町推計

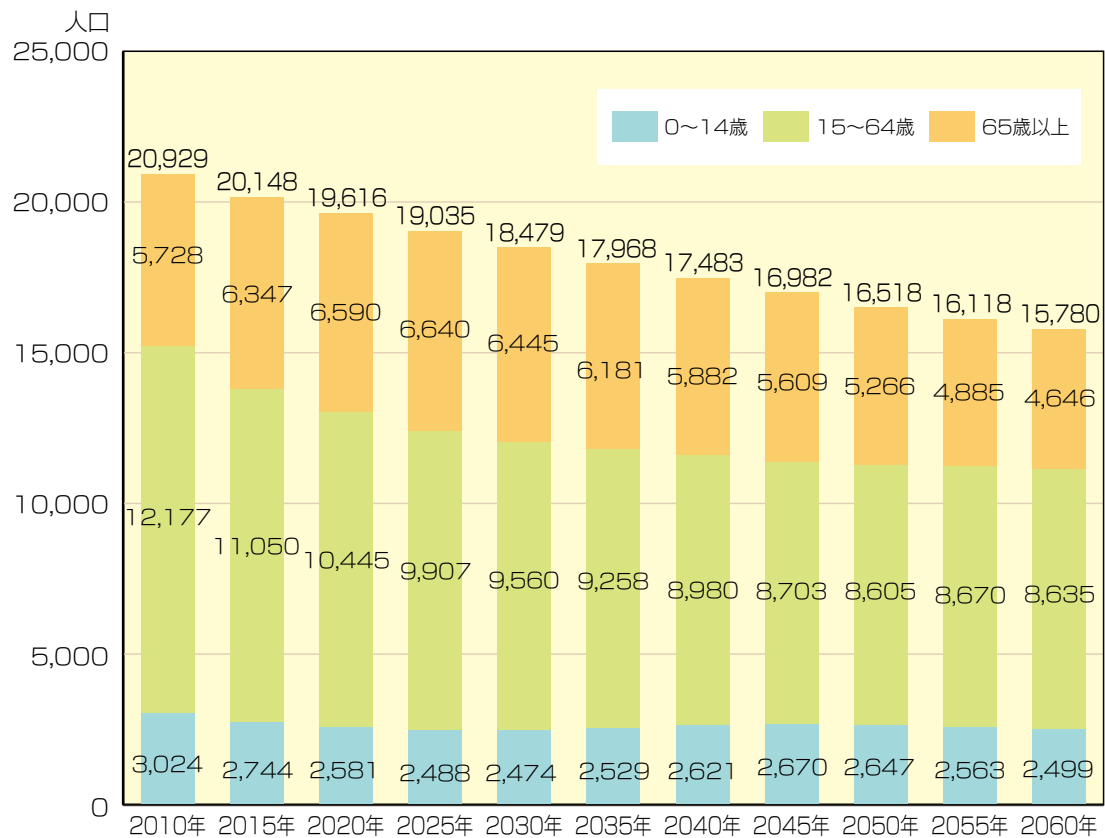


図2 有田町推計における年齢3区分別人口の推移

思いやりでつながる心豊かなまち

(住民参画・協働)

少子高齢化や核家族化、人々の価値観や生活様式の多様化が進む中、地域における連帯感が希薄になり、地域が本来持っている相互扶助の機能が低下してきています。こうした状況の下、地域を取り巻く様々な課題に、「地域でできることは地域でやろう」と、住民が主体となって互いに協力し、自発的に取り組んでいくために、住民同士が思いやりの心でおせっかいをやくことにより、地域住民一人ひとりのコミュニティに対する関心を高めていきます。

行政需要がますます複雑化、高度化している中で、活力あるまちづくりを行っていくためには、住民と行政が共通認識のもとで相互の特性を尊重した、協働によるまちづくりを推進していくことが重要です。そのために、政策決定過程に住民の声を積極的に取り入れるとともに、住民の一体感と協働意識を醸成します。地域の公民館などを活用した様々な地域活動を通して、地域における世代間の交流とリーダーの育成を推進します。同時に、住民活動団体、民間企業や大学などの教育研究機関が、地域のなかで地域の課題解決に参画することで、地域力の向上を目指します。

行政事務の情報化、組織や公共施設の効率化、職員の資質向上などを積極的に進めます。同時に、他自治体との地域間連携や広域行政を推進し、行財政運営の高度化、財政基盤の強化を図ります。また、町内外への行政情報の発信やタウンプロモーションを強化し、情報の共有を図るとともに、有田町民としての誇りや愛着を高めていきます。

このようなことにより、性別や国籍、年齢などを問わず、それぞれが社会の対等な構成員として尊重され、すべての住民が真の豊かさを享受できる地域社会の構築を目指します。



世代を超え楽しく安心して暮らしやすいまち

(福祉・保健・医療)

更なる人口減少と少子高齢化が避けられないなかで、すべての世代の住民が健康寿命を伸ばし、生涯を通じて健康で心豊かに暮らすために、ライフステージに応じた健康づくりを推進します。また、適切かつ持続可能な医療や介護を受けることができる、安心して暮らしやすいまちづくりを目指します。そのために行政と社会福祉協議会、医療機関、老人クラブ、地域及び住民活動団体等との協働により支援体制の強化と環境整備に取り組みます。

住民一人ひとりが地域での交流などを通して、世代を超えてともに支えあい、ふれあいながら、日常生活の中で積極的に健康の維持、増進に取り組みます。そのために、行政、住民、地域及び職場などが協力して健康づくりを行っていく体制づくりを推進します。また、健康に対する意識を一層高めてもらうための健康診査・健康相談をさらに充実させます。

高齢者や障がい者などが、思いやりのある共生社会の中で、安心して日常生活を送るために、福祉サービスの充実とともに、人材活用や社会参加を推進します。また、高度医療の充実と努めると同時に、かかりつけ医による在宅医療体制の整備を促進し、地域と福祉サービスが連携した地域包括ケアシステムを構築します。

明るい明日を担う子どもたちがいきいきと健やかに育つために、親だけでなく学校、企業、行政、そして地域のすべての人が子育てで支援に関わることで、結婚して子どもを産み、安心して子育てができるまちづくりを目指します。地域における世代間の交流を通して、地域の知恵や人材を活用するとともに、子どもの見守りや親同士の交流の場を充実させます。また、行政からの情報発信の強化や交流・相談の場の更なる充実を図ります。



安全安心で、自然と共存できるクリーンなまち

(生活環境基盤)

有田町は、有田川や黒髪山系などの豊かな自然に恵まれ、その豊かな自然が地域の産業や文化をずっと育んできました。すべての住民が地域の貴重な資源であるこの自然環境と共存して生活する、クリーンなまちづくりが求められます。

そこで、将来にわたって快適に生活環境を維持していく資源循環型社会を構築します。そのために、住民と事業者、行政の役割を明確にし、ごみの排出抑制や分別、再利用、再資源化（リサイクル）の促進及び不法投棄の根絶を目指します。また、下水道整備等による水質保全や森林育成、環境美化など、自然と調和した総合的な環境保全施策を推進します。自然環境や生活弱者に配慮し、地域の均衡ある発展を考慮した計画的な生活基盤の整備と維持管理に取り組みます。

安全で暮らしやすい生活基盤の確立と産業・経済効果を考慮した道路網の整備と長寿命化を推進します。また、日常生活の利便性向上と交流の活性化のための、公共交通体系の整備充実を進めます。

また、住民が安全かつ安心して暮らしていくために、消防・救急・防災体制をさらに整備します。この10年の間に、東日本大震災や熊本地震が発生し、私たちは甚大な被害を目の当たりにしました。このような大規模災害はもとより、火災や大雨などに対処するために、総合的な防災体制の構築と消防団をはじめとした地域の防災力の充実、強化を推進します。



食と器で人が集まりつながるまち

(産業振興・観光)

有田町は、世界に通用する陶磁器文化やロマン溢れる歴史、美しい自然景観など魅力的で多彩な観光資源を有しています。これらの資源とこれまで培ってきた伝統技術を活かすことにより、食（農畜産物）と器（有田焼）が融合した産業の活性化と交流人口の増加を目指します。このため、2016年の有田焼創業400年事業における取組の成果やノウハウなどのレガシーを活用し、次の100年のために住民間の交流をさらに深め、町の一体性を確保します。ひとつひとつのつながり、そして、伝統工芸の継承という意味でのつながりを重視し、若い人が魅力を感じ、定着できるまちづくりを目指します。

世界規模での地域間競争が激しさを増す中であって、他地域との競争に勝ち残り、若年層の町外への流出を防ぐためにも、町内産業が活性化しなければなりません。そこで、400年の伝統技術によって培われてきた陶磁器産業をはじめとした地域産業の技術革新や付加価値の向上、後継者の育成、事業者間の連携強化による産業の活性化を目指します。同時に、新たな産業の創出や企業誘致を推進します。

また、新たな時代に対応できる持続可能性のある農業の実現と農村の活性化を図り、農林業の多面的な機能の保全と活用に向けて、生産者、関係機関・団体、行政が一体となり、農林業の振興施策を推進します。また、特色ある農産物の生産と情報発信により、食のブランド化を進めます。

通年観光の実現を目指し、地域資源をさらに磨き上げるとともに、おもてなしの心を醸成します。また、地域の偉業や偉人を顕彰するとともに、様々な媒体により、積極的に町外へ情報を発信することで、人々の交流を拡大させます。



みんなで共に学び共に楽しみ紡ぎ合うまち

(文化・教育)

新しい時代に即応した活力あるまちづくりを進めるためには、国際化や情報化が進展する時代にふさわしい、地域の将来を担う青少年を育成するとともに、世代を超えて、地域の歴史や文化を良く学び、ふるさとに愛着や誇りを持つことが重要です。

このため、学校と家庭、地域や大学との連携を深め、地域が一体となって、次代を担う子どもたちの個性や能力をのばします。社会の変化の中で主体的に生き、自立していく力を培っていくための教育環境づくりを推進します。高齢者の豊富な知識や経験を活かした体験学習や、地域の産業や文化、歴史を学ぶ地域学習を取り入れるなど、有田らしい特色のある教育により、児童、生徒に郷土愛と地域の一員としての自覚を育みます。

さらに、地域の歴史や伝承芸能、地域文化、芸術に接する機会や地域交流の場を増やし、文化のまちにふさわしい感性を育むとともに、地域住民が互いに助け合う心を大切にします。また、子どもから高齢者までいつでも気軽に参加できる文化活動や学習活動、スポーツ活動の機会を拡充し、生涯学習と生涯スポーツの振興を推進します。

有田町には、日本の伝統文化、とりわけ陶磁器文化の発展に大きく寄与した400年の歴史があります。この歩みを現代に伝える古窯跡や有田内山の伝統的建造物群をはじめとした多くの文化財を後世に残し伝え、陶磁器文化や農村文化など地域の個性的な文化の保全などを促進します。また、周辺環境の整備や情報発信などにより、これらを観光や生涯学習など、まちづくりに多面的に活かしていきます。



